

「日本基督同胞教会史」研究会  
アメリカにおける同胞教会の成立  
—その教派的特徴と日本伝道まで

原 誠

## 1. 始めに

富坂キリスト教センターはそのプロジェクトのひとつとして日本に1901年に成立し、1941年の日本基督教団の成立に伴い日本基督組合教会とともに第3部に属した旧日本基督同胞教会の歴史をまとめようとしてきた。そのためにまずアメリカの同胞教会が日本伝道を開始する以前に、アメリカでどのような歴史的経緯でこの教会が成立したのかをまとめることがこの節の課題である。

これに関しては『日本基督同胞教会史』（同編纂委員会、昭和38年）に「前史」として「基督同胞教会の起源」という項目で2ページの簡単な文章がある。それ以外に歴史的に日本基督同胞教会に属しており、現在の日本基督教団小田原十字町教会が1998年12月25日に『小田原十字町教会百年史』を出版したときに、米国人宣教師で基督同胞教会と関係が深かったJ.R. コール (Javan R. Corl) が日本語で記した12ページの「資料一（その一）アメリカの基督同胞教会の沿革」という文章がある。この文献は他のそれとも比較して最も詳細である。したがってここでは主にこの資料を参照しつつ、その他の資料を参照しながら、アメリカの同胞教会の成立についてまとめることとする。

その資料とは以下のとおりである。

Church of the United Brethren in Christ USA (HP)

Our History Church of the United Brethren (HP)

Church of the United Brethren in Christ (WIKIPEDIA)

その他、WIKIPEDIA で検索できた人名、事項を参照し、また『日本キリスト教歴史大事典』（教文館）、『キリスト教歴史人名辞典』（日本基督教団出版局）、『岩波キリスト教辞典』（岩波書店）の関連項目を参照した。

アメリカのキリスト教は歴史的展開の特徴として「教派主義」(denominationalism) と「政教分離」をあげることができる。そしてここで取り上げる同胞教会はアメリカで創立された最初の教派教会であり、また奴隷制に対して明確に反対の立場を

とった最初の教会でもあった。

北米大陸では1607年建設のヴァージニア植民地に英国国教会が、20年建設のプリマスにはピューリタンの分離派の教会、30年建設のマサチューセッツ植民地に同非分離派の教会がそれぞれ設立（ニューイングランド植民地）された。ピューリタンたちはヨーロッパをエジプトに、北米大陸を乳と蜜の流れる土地になぞらえ、自らを新しいイスラエルとみなし、それぞれの植民地では各々の教派が公認宗教とされ、当初は他の教派の信仰の自由は保障されなかった。しかし34年カトリック教徒の避難地として設立されたメリーランド植民地や、R.ウィリアムズによるプロヴィデンス植民地、81年フレンド派（クェーカー派）W.ペンのペンシルベニア植民地では宗教の自由が主張され、これが「政教分離」原則として独立革命後に憲法修正1条として実現した。

このようにアメリカのキリスト教は植民地に成立したところに特徴がある。その後、アメリカの国土、さらに西部開拓への進展に伴い、植民地時代が経過するにつれ、回心体験が減少し宗教心も薄れ、教会存続の危機を感じたピューリタンは、18世紀中葉ボストンを中心に大規模な信仰復興運動を開始した。信仰復興運動（リバイバル・ムーブメント）である。会衆派の牧師で優れた神学者であったエドワーズやメソジスト派の説教家ホイットフィールドらが、各地で伝道集会を開き、神の怒り、最後の審判とキリストの救いを説き、回心を迫り、多くの者が信仰を鼓舞された。教派を越えたこの信仰復興現象は、アメリカの国民意識の発展と独立革命に際しての統合の面でも重要な役割を果たしたとされる。

アメリカ入植からおおよそ200年後の18世紀半ばに始まる大覚醒運動、そしてアメリカの1776年の独立宣言は、「教派主義」（denominationalism）と「政教分離」の原則によって歩み始めた。アメリカの同胞教会の成立はこのような背景を踏まえなければならない。

## 2. アメリカの同胞教会の創立者の一人・オッターバイン

アメリカに1789年に新しく創立されたプレザレン教会は、オッターバインとベームという二人の、それまで異なった教派的背景を持った二人が互いに「同胞」として、それまでの教派を超えて歩みを始め、さらに民族的背景を超えて新しい教派として歩み始めたところに特徴がある。

オッターバイン（Philipp Wilhelm Otterbein 1726—1813）は、ドイツのデイレインブルク市に生まれ、父はヨハン・ダニエル・オッターバイン牧師、母はウイ

ルヘルミナ・ヘンリエッタ・オッターバインである。オッターバイン牧師夫妻には6人の息子がおり、フィリップ・ウィリアムはその次男であった。オッターバイン家の息子達は皆牧師になった。フィリップ・ウィリアムは家族の中では「ウィリアム」と呼ばれ、本人も自分の名前を大概「ウィリアム・オッターバイン」と署名する程であった。ウィリアムの少年期に父が亡くなり、家族はヘルボン市に移住した。この町で神学を学び、ドイツ改革派教会の牧師として接手を受けた。ドイツのパイエティズム（敬虔主義）やオッカスドルフ改革派の影響の影響を強く受けていたオッターバインは率直に福音を宣べ、ふしだらな生活や、形式だけの信仰を罪として公然と非難した。丁度その頃、オッターバインは母から「我が子よ、この町はあなたにとって狭過ぎる処ではないでしょうか。別の場所であなたの本当の仕事が待っているかもしれません」というようなことを言われたと伝わっている。

彼は他の5人とともにオランダ改革派教会から1752年にアメリカに宣教師として派遣された。18世紀の半ば頃までにアメリカへ移住していたドイツ人は、およそ90,000人程度でその中にはルーテル教会とメノナイト教会の信者がいたが、顕著なことはドイツ人移民の3分の1がドイツ改革派教会と何らかの関係を持っていたことである。ところが実情とは言えば、多くの移民には牧師がおらず、礼拝堂もなく、教会組織もなかった。アメリカへ移民していたこれらのドイツ人が信仰を完全に失ってしまわないためにオランダ改革派教会がヨーロッパで宣教師を募集し、アメリカへ派遣することになったからである。彼らはアムステルダムで宣教師としてのオリエンテーションを受けたのちアメリカに出発した。

アメリカは1783年にアメリカは形の上では英国から独立した。独立したとはいえこの国は主に茫漠たる荒野であり、都会と呼ばれる場所は少なかった。1790年のアメリカ全土の人口は3,912,214人で、その10年後は5,308,483人まで増加したものの、その半数近くは黒人奴隷であった。現在オハイオ州、インディアナ州、ミシガン州、ウィスコンシン州、イリノイ州となっている中西部地域は、オッターバインの時代は住民人口がおよそ50,000人であった。当時のアメリカは人口が非常に少ない国で後進国とも呼び得た。町には街灯も水道も下水道も無いに等しかった。医学も歯科学も遅れており鍛冶屋が歯科医の仕事をししばしばやっていたという。

オッターバインがアメリカに着いた1752年以後、徐々にアメリカと英国との外交関係が緊張の度を増すようになり、遂に1775年4月にアメリカの独立戦争が勃発した。つまり、アメリカの独立戦争前後というまさに混乱の時代にオッター

バインの牧会伝道、開拓伝道はドイツ系移民の間で始められたのである。1776年4月にアメリカの独立宣言が署名された時、彼はボールドウィン市内の教会で伝道した。彼が関わった教会は主にドイツ語を話す改革派教会であった。彼が牧会した教会はペンシルベニア州ランカスター市内の教会（1752年—1758年）、ペンシルベニア州ツルベホケン市近郊の2教会（1758年—1760年）、メリーランド州フレドリク市内の教会（1760—1765年）、ペンシルベニア州ヨーク市内の教会（1765年—1765年）、メリーランド州ボールドウィン市内の教会（1765年—1813年）であった。

オッターバインはフレドリク市内の教会を牧会していた1762年4月19日にスーザン・リーロイと結婚した。オッターバインは35歳、スーザンは26歳であった。スーザンは結婚してから6年後に病没した。オッターバイン夫妻に子供が生まれたという記録はなく、またオッターバインは妻の死後再婚しなかった。

ランカスター市内の教会で牧会の職に就いていた時、オッターバインは自身の救いを真に確信するにいたるある経験をした。とある日曜日、力強く説教した後、彼は自身が救われているという確信を実は持っていないと自認したのであった。彼は直ぐに書斎にこもり長い祈りを捧げた。その結果、神は確実に彼を救し救ってくださったのだという確信が与えられた。この確信の体験がオッターバインの信仰生活の中で意味深い転換の機会となった。

### 3. アメリカの同胞教会の創立者の一人・マルチン・ベーム

アメリカの同胞教会の創立に深く関わったもう一人のマルチン・ベーム（Martin Boehm 1725—1812）は、ドイツ語圏であったペンシルベニア州のランカスターに住むジェイコブ・ベームとバーバラ・ケンディの息子として生まれ、53年にイブ・シュタイナーと結婚したメノナイト教会の信徒伝道者であった。彼は信仰の確信を得るために何か月も祈りと瞑想のときをへて信仰の確信を得、その後、彼は改心、悔い改め、新生の必要性を宣べ伝える熱心な説教者となった。67年5月10日のペンテコステの聖日にランカスター郡内のアイザーク・ロング所有の納屋で伝道大会が催された。人々はランカスター郡だけでなくヨーク郡やレバノン郡からも大勢集まった。ヨーク市内で牧会をしていたオッターバインもそれに参加していた。この伝道大会でベームは力強く情熱的に説教し、オッターバインは非常な感銘を受けた。彼は説教が終わると直ぐにベームのところへ行き、彼を抱きしめ、ドイツ語で「我々は兄弟なのだ」（Wir sind Brüder!）と叫んだ。これを機にはなかったにせよ、1779年までにベームとオッターバインが協力し、似たような信

仰体験を持つ巡回説教者等と共に組織を創るため交友関係を持っていた。オッターバインは亡くなる迄、名目上は改革派教会の教職にあった。が、当時の改革派教会を信仰的に蘇生させることは諦めていたと言える。他方ベームはメノナイトと離反した。そしてオッターバインとベームの2人は「弟子」と呼ばれる福音的な牧師や伝道者を引き付け、諸所で情熱的で燃えるような伝道活動に励んだ。

#### 4. 同胞教の創立

こうして始められた新しいキリスト教の活動は、1789年にオッターバイン、ベーム及び他の5人の協力者が第一回会議を開き（その他の7人は出席することができなかった）、この会議では新しい教派教会の創立が議題となっていた。この場では簡単な信仰告白と教会規定が採用されたに留まる。より重要なのはその11年後に開催された1800年の第3回同胞教会会議であると言えよう。会議場はメリーランド州フレドリク郡のピーター・ケンプの家であった。ここに13人の牧師が集まり、この時、運動や教派の名称が決定された。それがThe United Brethren in Christであり、監督としてオッターバインとベームが選出された。この教会が日本語で「基督同胞教会」となった。直訳すると「キリストにおいて合同した兄弟」というような意味である。同胞教会は、こうしてアメリカで始められた最初の教派教会であり、1821年に奴隷制に対して明確に反対の立場をとった最初の教会でもあった。1873年以後、奴隷の所有者はこの教会の会員として認められなくなった。

19世紀に入ると同胞教会は段々に教派教会としての組織形態を取るようになっていった。神学的にはアルミニウス、J. (Arminius, Jacobus) 主義の、制度的にはメソジスト教会の監督制を採用した。初代の同胞教会にはオッターバインやベームの協力者、ドイツ移民の中で悔い改めた者が心の回心の必要性を福音的に伝えていた。以下の人物が顕著な伝道者として名を残している。即ちジョージ・アダム・ゲーティング、ジョン・ナイティディグ、ジョン・ジョージ・フリンマー、クリスチャン・ニューカマーなどである。

これらの開拓時代の牧師の中でもクリスチャン・ニューカマー (Christian Newcomer 1749 - 1830) の名が知られている。彼はスイスからの移民の子として生まれ、ペンシルベニア州ランカスターで育ち、メノナイト派の信徒として育ち、農業に携わっていた時、オッターバイン、ベームと出会い、当初は信徒伝道者としてペンシルベニア州の東部から西部にかけての50回以上の伝道旅行を常に馬にまたがって出かけた。同胞教会の「聖パウロ」と呼ばれているニューカマーは、

さらにオハイオ州、ケンタッキー州、インディアナ州、そしてニューヨーク州を馬で伝道旅行した。彼は他の同胞教会の牧師とは違い、詳細な日記をつけていた。この日記の冒頭はニューカマーの自伝である。長年この貴重な文献は絶版となっていたが、最近になって再版された。

## 5. 同胞教最初の按手礼式

ニューカマーは1810年に、オハイオ州内マイアミ年会という最初の同胞教会年会を創設した。教職者だけが年会員を構成し、人数は15人に過ぎなかった。ある者は「正教師」、ある者は「説教者」、ある者は「奨励者」と呼ばれていたが、その内の誰一人として按手を受けている者はなかった。1813年までに同胞教会の「正教師」という職は明確に制定されるべきであるとの意見が強まり、結果として、1813年8月27日、マイアミ年会で「オッターバインに書簡を送り、按手を授けていただくよう依頼する」という議案が可決した。この願いに応じて、亡くなる1か月半前の1813年10月2日にオッターバインは以下の3名に按手を授けた。それはクリスチャン・ニューカマー、ジョセフ・ホフマン、フレデリク・シャーファーであった。彼らが同胞教会内で最初に按手を受けた牧師である。

マルチン・ベームは、同胞教会設立年の1800年から亡くなるまでの12年間、活発に巡回伝道に励んだ。彼は度々、ニューカマーとギーティングと共に馬で伝道に出発した。ベームは監督として主にペンシルベニア州の南部地区で勤務していた。記録には彼がメソジスト教会の指導者と親しく交流していたとある。良い例はベームが1812年12月21日に亡くなった際、その葬儀で説教をしたのはメソジスト教会の監督フランシス・アズベリーであったことである。ベームが埋葬された土地はベームの生前の所有地で、ペンシルベニア州ランカスター郡内の「ベームのチャペル」と呼ばれた場所である。

オッターバインは晩年にはメリーランド州ボルティモア市内の改革派の牧師であり、同時に同胞教会の監督も兼任していた。老年期に入っていたオッターバインは、1813年に老衰が進み、11月17日に亡くなった。葬儀の説教はルーテル教会の牧師のJ・B・カートがした。オッターバインが埋葬されたのは彼が牧会していた教会の敷地内で、この教会は現在でも残っている。この教会は「ザ・オッターバイン・チャーチ」という名で知られており、今日では合回メソジスト教会の一つとなっている。

この信仰告白は時がたつとともに増やされていき13カ条となったが、これは聖

日礼拝のなかでは用いられなかったので、ほとんどの教会員はその内容をしらなかったといわれる。

他方、教会の信仰職制に関わる事柄について、奴隷制度については南部に存在した同胞教会が少なかったこともあり、多少の議論があったものの教会の分裂にいたることはなく、明確に奴隷制度を否定したが、その他、女性の信徒が執事職をどのようにみていたかということについて、1841年にシソートで開催された年次大会でコーブランド姉妹が「女性執事」を認めてほしいという嘆願書が出されたがそれが却下され、その後約30年たった1878年ペンシルベニアの年会でも同じく議論されたものの執事職は男性に制限されるということになった。1880年代にはアメリカで女性参政権運動が始まっていたにもかかわらずこの時代、同胞教会では女性執事さらには女性教職の就任について必ずしも積極的ではなかったといえる。

## 6. 教派教会としての形成と歩みと海外宣教

1816年に同胞教会は初めて規律書(Discipline)を採用した。この規律書には簡単な信仰告白も含まれていた。同胞教会の出版局はオハイオ州のサーカルビル市にあったが、1854年に同州内のデイトン市に移転した。オッターバインプレス(The Otterbein Press)という同胞教会の出版局でありつつ、第2次世界大戦後の1946年の福音教会との合同の後も活動を続けていた。

同胞教会の内外宣教局が創設されたのは1873年であった。アメリカの発展の時代を通してアメリカ社会、またアメリカのキリスト教会が、ここでは同胞教会が先住アメリカ人とどのように関わったのかということも課題となろう。管見の限り現時点での理解はクエーカーが彼らと関わったとの記述があるものの、同胞教会を含めて多くの教会の彼らとの関わり方は、彼らに教育を与えて文明化し、そして洗礼を授けて教会を設立させるという伝道ではなかったか。同胞教会の最初の宣教師(男性3名)がアフリカのシエラレオネに派遣されたのは1875年であり、その後もこの地には女性宣教師を派遣されたが、基本的にはこのような宣教活動であったといえよう。その他に中国、フィリピン、プエルトリコにも宣教師が派遣され、そして1859年に同胞教会は日本に宣教師を派遣したのである。